

## 座談会

## はじめの一步 SOLS座談会 第2回

開催日時 2024年8月28日(火)

SOLS 参加メンバー

司会：伊原 彩華(群馬パース大学二年生)

山口 真央(藤田医科大学一年生)

森田 菜生(藤田医科大学一年生)

中島沙和代(藤田医科大学一年生)

中山 章文(岐阜医療科学大学 教員)

アシスタント：八木喜久子(㈱宇宙堂八木書店)

はじめに

伊原：初参加の方が多いので、まずは自己紹介を私から。群馬パース大学2年の伊原彩華と申します。本日はよろしくお願いします。

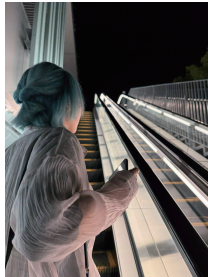


伊原：次に中島さん。

中島：同じく藤田医科大学1年の中島沙和代です。お願いします。



山口：藤田医科大学1年の山口真央です。よろしくお願いします。



伊原：次に菜生さんお願いします。

森田：同じく藤田医科大学1年の森田菜生です。お願いします。



中山：さっきちょっとお話しさせてもらったんですけど、藤田の方が3名いらっしゃって、本当に近くの中部の、もう少し山のほうに入った岐阜県関市にある岐阜医療科学大学で教員をやってます。実は私の母校で、ずっと30年間現場でいてました。そのときは関西で働いていたんですけども、10年前にこっちに戻ってきて教員になってます。教員が一人いるとなかなかしゃべりづらいという側面もあるかもですが、困ったこととか、教員はどう思っているのっていうことを聞いてもらうために参加してますので、自由にお話ししてください。よろしくお願いします。

八木：宇宙堂八木書店の八木と申します。東京の方で医学系、特に検査に特化した出版をしております。よろしくお願いします。

## テーマ① 何日前からテスト勉強を始めたか

伊原：私が皆さんを順番に指していきますので、お答えいただければと思います。では一つ目。テスト勉強は何日前から始めるかという質問なんですけど、山口さんいかがでしょうか。

山口：私はバイトの量を1ヶ月前から減らして、試験勉強に集中しています。

森田：私は3週間くらい前から勉強する時間の記録をつけ始めて意識します。

中島：私は1ヶ月くらい前からテスト勉強を見て覚えるためのレジュメとかそういうのをまとめたりましたが、結局、頭に入らなくて、前日にガンガンに詰めてテストを受けました。

伊原：ありがとうございます。皆さん、藤田の1年生ということで、多分前期って比較的教養科目が多いかなって思うんですけど、どういう科目を学ばれましたかね。

山口：私は結構いっぱい選択を取っちゃって、教養科目でいうと、生物と科学と基礎物理学を取っていて、物理は少人数なんですけど、仲良い子が一緒に取ってたので、その子と一緒にこれってどうやってやるんだっけ、みたいなのを勉強しました。

伊原：真央さん、ちなみに高校の時の理科の選択項目は何でしたか？

山口：化学、物理です。

伊原：生物結構しんどくなかったですか？

山口：しんどかったです(笑)。生物学は、高校で習うような感じのことをやるんですけど、それと同時に並行で、普通の専門基礎も並行していくから、(テキストに出てくる)その単語はどういう意味なの、みたいなのをすごい困りながらやりました。

伊原：なるほど。大学入学する前に生物の経験あったんですね。ちょっと見ようかなって(資料を)パラパラ見たりとかされたんですか？

山口：見ました。生物基礎は1年生の時にやっていたんですけど、なんか、見たは見たけど、でもそ

れがやってみたくないぐらい、生物ってもっとすごいガッツリ生物だったので、もうちょっと真面目にしっかりやっておけばよかったなーとは思いました。

伊原：ありがとうございます。結構、検査って生物中心な分野で大変だったりしますよね。ありがとうございます。菜生さんは前期何を勉強されました？

森田：私も生物とか化学とか取って、でもまあそれは高校でやったし、いいかーって感じでちょっと後回しにしてて、心理学と法学とスポーツを取ってたんですけど、スポーツはテストがないんでラッキーと思って。あと法学と心理も(資料の)持ち込みができたんで、それを頑張っていました。心理学は1ページ、1枚紙をもらっていくらでも書いていいよっていう形式だったんで、ずっとそれに時間かけてました。そんな感じです。

伊原：ちょっと言い方悪いですけど、カンニングペーパーみたいなものって作るの大変じゃないですか。紙に書けるからって、ちっちゃく細かく書きすぎると、本番どこに何書いてあるかみんな分からなくなっちゃうんですよね。私もそういう経験があったので、今思い出しました。沙和代さんはどうですか？

中島：これって必修以外の科目のことですか？

伊原：何でも、必修でも大丈夫です。

中島：先輩方から解剖と公衆衛生はやバイっていうのを聞いてて、それはめっちゃレジュメとかいっぱい作って覚えてました。心理も取ってたんですけど、心理もちゃんとカンニングペーパー作らないとヤバイよって言われて、頑張りましたが、こっちは意外と問題が簡単だったので、こんなに詰めなくてもよかったかなって。一番、生化学と生物はいけるだろうって思っていたんですが、再試はなかったものの、一番難しいなって感じました。覚えることが多くて大変でした。

伊原：私も生化学すごい苦手で、どうしようもないんで、来月先生に教えてもらおうと思っているんですが、予想以上に難しくて。どこが検査と結びつくんだろう、わかんないってなりましたが、専門科目始まってから、解剖学とか生理学とか生

化学めっちゃ大事じゃんっ！て気づいたので、皆さんも専門科目始まる前に、手を打っておいた方がいと思います。私はだいたい1か月前くらいからテスト勉強を始めるのですが、暗記しても、どうせすぐ忘れちゃうんで、バーって詰め込んでっていう感じでした。

## テーマ② 第二外国語について

伊原：ちょっと気になっていることがあるんですが、皆さん第二外国語の授業とかがってありましたか？

山口：ありました。

伊原：皆さん何を選択されました？真央さんからお願いします。

山口：中国語を取りました。そもそも大学の中の選択の悩みがあって、語学の選択が中国語とかドイツ語しかなくて、中国語にしたんですけど、授業は喋るのが中心な感じで、テストもすごい先生が優しく、この中から出しますよみたいな、本当にポイントを絞って言ってくれたので、良かったです。

テスト対策としての中国語は、(勉強時間も)少なく済んで嬉しい評価でした。

伊原：菜生さんは何を選択されました？

森田：私も中国語で、同じ感じです。

伊原：沙和代さんは何ですか？

中島：私は、(本来は1個でいいんですが)どっちも取りました。、授業のカリキュラムが、中国語が前期、ドイツ語が後期だったので、ちょうどいいなと。私は語学めっちゃ好きで。だから、語学学べるんだったら、どっちも取ろうって感じで。

伊原：なるほど、沙和代さん、高校の時、留学されてたんでしたっけ？

中島：ええ、カナダです。

伊原：すごい。英語は普通にコミュニケーションできるくらい話すことができるんですか？

中島：まあ、意思疎通は取れます。でも、ちゃんと自分の意見を、日本語としては意見があるのに、それを正確な英語に戻すのはまだ難しくて、結局、

言葉に詰まっちゃったりとかします。

伊原：そうですね。難しいですね。私も中学生の頃、英語スピーチとかやってたんですけども、大学入って英語に触れなくなってしまった途端、もう、どんどんどんどん抜けていっちゃって、多分勉強し直さないと喋れないって感じ。

中島：日本にはスマホのアプリでハロートークっていうのがあって、そのアプリを使って、海外の不特定多数の人と喋ったりできるんです。あと、自分、空手やってたんですけど、その道場の先生が結構グローバルな方で、道場にアメリカの人とかポルトガルの人とかいらっしゃるので会話してみたり。最近もアメリカ人の方と仲良くなって、英語を喋る機会が作れるので、結構いい感じです。

伊原：そうですね、是非継続していただきたいと思います。私はドイツ語を選択しましたが、(同じく選択した人が)5、6人くらいだったので人が少なくて、初めての授業を受けに行ったとき(内心)選択間違っちゃったかもって思って、すごい不安でしたが、なんとか耐え抜いてよかったです。多分ドイツ語を攻略するコツは、英語の発音をちょっと気にするといいかなって思います。英語の子音があるじゃないですか、あれの発音の仕方とちょっと似てる部分がドイツ語ってあって。それに気が付けるとなんか入りやすいかなって思います。・・・

## テーマ③ テスト勉強のスタイル

伊原：次の質問にこんなかと思います。じゃあ次、テスト勉強をどんなスタイルでやってますかってことなんですけど、真央さんいかがでしょう。

山口：はい、テスト勉強は先生が授業の時に配信してくださったレジュメを中心に勉強しています。教科書は先生たち自体があんまり使っていない気がしてるので、教科書よりもその先生のレジュメを中心に青ペンで塗って、シートで隠してっていう感じでやってます。

伊原：レジュメってどんな感じですか？ スライ

ドがボンボンボンって載ってる感じですか？

山口：そうですね。

伊原：なるほど、ありがとうございます。菜生さんいかがですか？

森田：私も、最初はパソコンで勉強しようと思ったんですけど、ちょっと自分には向いてないなって思ったんで、大学のコピー機使わせてもらって、解剖学とか整理学とか必修科目は印刷して「紙」で勉強して、あとは普通に通学時間にスマホでレジュメをずっと見るとか、選択科目のなかでも、比較的重要ではなくて、印刷するのももったいないな、みたいな科目は、スマホでちょっと黒塗りして、(通学電車の中で)隠して勉強してました。

伊原：ありがとうございます。通学にかかる時間、結構長かったりするんですか？

森田：1時間ちょいかかります。

伊原：結構かかりますね。でも毎日コンスタントに1時間勉強する時間を取れるっていうのは結構大きいですね。私、いつも3分しか電車に乗ってなくて、電車入って立ってちょっとぼーっとしたらすぐに着いちゃう。勉強できないんですけど、いいなって思います。ありがとうございます。沙和代さんはどうですか？

中島：私もレジュメコピーしてそれを見るのと、あとは自分で文章を音読した方が覚えられるタイプなので。だから家でブツブツ言いながらやりました。パソコンで見ると、紙で見ると、覚える効率が全然違って紙の方がめっちゃ覚えられますよ。だから、ペーパーレスとか言いながらも、めっちゃ大量のレジュメをコピーして、荷物がすごいことになりました。紙が多すぎて。

伊原：そうですね。レジュメ大変ですね。私の大学では、授業のレジュメが穴埋めになっていることが多くて。授業中に先生の講義を聞きながら、穴が空いているところをオレンジペンで埋めていくっていうのが結構多いんですけど、ほとんどの科目がそうになって、それを授業中書いて、他に言われたところはメモして、テスト前にレジュメを赤シートで隠してみたりとかしてますね。あと、選択問題は、国試(国家試験)から出ますよって言われることも結構多くて、そういう時は国試

の過去問、裏回答っていうんですけど、国試の選択肢で、何が正解で、何でこれは不正解なのかっていうのを、自分でいろんな本を見たりして書いてっていうのをやったりしてました。なんか、皆さんの話聞いてて思ったのは、パソコンとかのワードが出てきたんですけど、iPad 使ってる方っていらっしやいませんか？

山口：いないなあ。

森田：大学から指定されてるんですよ、使うパソコンを。学部ごとに指定されているものもあるから。看護学科とかは、iPad ですよ？

山口：私たちの学部以外はみんな iPad で。

森田：Surface です私たち。

伊原：あ、そうなんですね。Surface って書き込める機種でしたっけ？

森田：あ、いけますいけます。

山口：いけますよね。

伊原：なるほど。私、iPad 使ってるんですけど、iPad の人いないなあと思って。八木：ちょっと質問いいですか？

伊原：はい。

八木：みなさん、勉強なさってるときに、私結構飽きっぽいんですけど、何かを知ろうと思って調べたりしている最中に、いつの間にか脱線して別のものを調べ始めちゃうこととかってありますか？

森田：あります。めっちゃあります。

八木：それで、面白いの見つけたなってことがあったら、ちょっと教えてください。

伊原：じゃあ、これはもうさっきと同じ順番で、真央さんから。

山口：はい。面白いことっていうか、(勉強する時に)教科書はあんまり使わないんですけど、授業内容に分からないことがあって、教科書で調べてるときに、周りの補足情報みたいな、ちっちゃく書いてあるところとかは、結構見入っちゃって、それで時間が過ぎてしまうことはあります。

伊原：あるあるですよ。結構面白い情報とか書いてあるんですよ。ありがとうございます。菜生さんいかがですか？

森田：私は家だとそうやって脱線しちゃうなと



思っ、全部図書館とか文化センターを利用してやったので、あんまり脱線せずできました。

伊原：ありがとうございます。沙和代さん、どうですか？

中島：記憶にないんですよ。脱線はするんですけど、そしてついそっちに興味が行っちゃうんですけど、何に惹かれたのか全然記憶になくて。でも、Google とかで調べ物をすると広告とか出てきちゃうじゃないですか。そういうのに引っ張られていくことがありますね。

伊原：ありがとうございます。

中山：ちょっといいですか？

伊原：はい。

中山：横道に逸れたときのほうが、結構そのことについて記憶があったり印象があったりして、覚えているっていうようなことないですか？

伊原：みなさん、いかがですかね。じゃあ、まおさんから。

山口：はい。「あー確かに！」みたいなのはあるんですけど、でも、忘れちゃう。たぶん私、忘れっぽいっていうか、記憶力が良くないから、忘れちゃうんですけど、でもその情報に出会った時の、「ああ！」みたいなのは、横道に逸れながらたどり着いた時の方が、感動がデカいような気がします。

中山：ありがとうございます。

伊原：菜生さん、どうですか？

森田：先生の雑談とかそういうことばかり記憶に残ったり…。友達が用語を覚えるためにちょっと変なこと言ったりとかすると、そっちの方ばかり思い出しちゃって、本当に知りたい、暗記すべきワードが出てこないとか。

伊原：沙和代さんどうですか？

中島：自分で見たものよりも、人から聞いたことの方が覚えていたり。

心理学の先生が、心理の実験とかに関連したところから、（あまり関係ない）いろんな話を持ってくるんですけど、それは今でも覚えてますね。自分で紙とか、電子媒体とかで見たものはあんまり覚えていないです。

中山：ありがとうございます。

山口：テスト前とかに、友達が「ここ出そうだよ

ね」と言ってることってよくあるじゃないですか。それ、結構私は耳の中に残ってて、それがテストで出たときは（おーっ！）で思ったり、あとは、専門科目が始まってから、いろんな科目が結構つながっているなって。具体的にどこがどうって今挙げるのは難しいですけど、ところどころで、この科目のここここの部分はつながっているって気づいた時は、すごい感動しました。

やっぱり、検査って一旦勉強する上で科目科目で区切られているけど、広く見てみれば一つの世界でつながっているんだなっていうのは、うすうす感じ始めてきています。

## テーマ④ 再試になった時の心持ちと勉強法

伊原：じゃあ、次の質問、ちょっと聞きづらいんですけど、再試になったときの心持ちと勉強法ということで、皆さんまだ定期試験1回しか受けていないので、再試になった方もならなかった方もどっちもいると思うんですけど、一旦、これも全員に聞いてみましょうかね。真央さんいかがですか？

山口：はい。私はとりあえず今回は再試なくクリアできたんですけど、再試になったら結構私は絶望する気がします。

「あー！悲しい」という気持ちの切り替えが大事そうだなって思ってます。

伊原：そうですね。菜生さんどうですか？

森田：私も今回は再試じゃないので、まだ分からないんですけど、再試になったら自分の勉強時間と自分のやったことを見直して、反省しつつ再度取りかかろうかなっていう感じですかね。

伊原：沙和代さんどうですか？

中島：この質問を入れたのは私なんですけど。今回再試にならなかったから良いんですけど、後期に生理学Ⅱと分子生物学と医化学っていうのがあって、それがすごい難しいらしくて、そのテストを受ける前に再試覚悟をしといた方がいいかなと思って。SOLSの先輩の人たちがいたら聞けたらよかったなって、ちょっと残念です。私は、再

試になったら何勉強していいのかわからなくなりそうで、不安すごい持ってます。

伊原：なるほど、ありがとうございます。ちょっとSOLSの先輩、私しかいないじゃんって思って。私も入学してからなんだかんだ耐えてて、まだ再試になったことはないんです。でも、解剖の先生が、「再試になってもそんな落ち込まないで、再試のために頑張ればいいんだよ」って。あんまり落ち込まなくて大丈夫。

森田：言っていました。

伊原：再試の勉強法は先生によって、中山先生の前でこんなこと言うとかあれなんですけど、本試(本試験)の問題と再試(再試験)の問題が違う先生と同じ先生がいて、それを先輩に聞いて、対処すればいいかなと思います。私、結構留年された方と仲が良くて、そういう方に日頃からこれってどこ出るの?とか、再試どういう形式?ってしつこく聞いちゃってました。そんな感じですかね。

伊原：じゃあ、皆さん今回は再試なかったってことで、次も再試ゼロで頑張りましょうね。再試代払うの嫌ですよ、地味に。ちょっと高いから。八木：はい。ではここで、大先輩に登場していただくべきではと。中山先生の思い出としてはいかがでしょうか?

中山：私は、教員になったときに、引き出しから通信簿を掘り起こして見てみると、なんと今担当してる微生物が赤点やったっていうね(笑)。なので皆さん自信を持ってくださいっていつも言うんですけども。教員のほうの立場として言うと、再試験の一番のコツは、「科目の先生に聞きに行く」です。

もちろん問題そのものは教えてくれないんですけども、例えばどういうふうに勉強したらいいとか、どういうところ大事ですかっていうのを聞きに行って、ずーっと聞いてるとポロッと出るんですよ。

この先生、たぶんこういう感じで試験を出すっていうのがわかってくるので。教員も人間ですから、問題内容そのものを教える訳には行かないけれど、質問に来てくれる学生には、いろんなことを教えたいっていう本能があるので、とにかく面

と向かっていろんなことを訊きに行くのが一番のコツだと思います。今までの傾向を友達とか先輩に聞くっていうのもいいと思いますけども、試験を作る本人に体当たりで訊きに行ったほうが、いろんなことを体で感じてくると思いますので。

伊原：ありがとうございます。中山先生の話聞いて思い出したんですけど、授業終わった後とか先生に質問に行っている方がいて、私そういう方すごいなあっていつも思いながら見てて。私も質問に行きたいって思いつつも、じゃあ何を訊くかと考えるとなかなか思いつかなくて、結局質問にいけないということが多くて。後期からちょっと頑張って、質問することを念頭に入れて講義を受けてみようかなって思いました。ありがとうございます。

## テーマ⑤

### テスト前は週に何回バイトをしているか バイトとの両立方法

伊原：じゃあ、次の質問に移ろうと思うんですけど、次も、(SOLS内で)アルバイトに関する質問が増えているので、これちょっとまとめて聞いてしまいたいかな。

☆テスト前は週に何回アルバイトしているか、と、  
☆アルバイトとの両立方法は?ということに関して、皆さんに訊いていこうと思います。真央さんどうですか。

山口：アルバイトは普段週4日入ってて、2つ掛け持ちしています。平日2日、土日両方、そのうち3日掛け持ちしています。それをテスト前は平日1日、土日2日に調整をしています。

テスト前は、テストが2週間にわたってあったので、その真ん中の土日、テストで挟まれている土日は休もうと思ってて、休み申請を出したんですけど、(何故かシフトに)入ってて、それに気づいたのが前日で、ちょっとこれはさすがにアルバイトに行かないとやばいと思って、結果的には、あんまりテストだからバイトを休むっていう生活にはできなかったんですけど、後期からは休もうとは思ってます。週一くらいにしようかなって思っ

てます。

伊原：ありがとうございます。1日で言うと、アルバイトに費やす時間はどのくらいでしょうか？

山口：平日は1日3時間くらいで、土日は長くても5時間とか、ギリギリ息抜きになるかなくらいの時間でやってました。

伊原：具体的にアルバイトの内容を教えてください。ことはできますか？

山口：平日は公文(学習塾)の採点をしたりとか、あとは「ここが分かんないです。」って質問に応えるっていうのをやっていて、土日はガストで飲食のキッチンをやっています。

伊原：すごい。その公文のアルバイトと、レストランのアルバイト、両立させつつ、大変だなーって思うこととかありますか？

山口：大変だなーって思うことは、公文だと、算数、例えば筆算の仕組みで、ここがどうしてこうなるの？みたいな疑問に対して、私が生徒として通っていた時は、私も理解できていなかったんですけど、教える側として「どうしてこうなるの？」と訊かれると、どうやって答えよう？と教え方に戸惑うことはあります。

伊原：人に教えるって、自分がその内容をちゃんと理解していないと教えられないから、自分自身の勉強にもなったりしますよね。

アルバイトと勉強の両立で心がけてたこととかあってあったりします？

山口：心がけてたことは、バイトが忙しいからって理由で勉強をサボらない。

テスト直前までアルバイトしてたっていうのもあるんですけど、逆にアルバイトがあったから、勉強しなきゃ、みたいな感じはありました。

伊原：なるほど。アルバイトがあったから、メリハリが出て、頑張れる部分もあったと。アルバイトやらないで勉強だけやると、ちょっとだらけちゃう部分があったりしますが、アルバイトやってた分、勉強できてないからやらないとってなりますよね。ありがとうございます。では次、菜生さん、いかがですか？

森田：私は5月から週1日でアルバイトのシフトを入れていたんですけど、7月になって週3日入

れてしまっていて。でも、仕事内容が家庭教師だったので、1回90分という短時間で、週3日でもいけるわってというのが今回分かりました。

伊原：なるほど、ありがとうございます。学習のシステムって、塾とか家庭教師とかいろいろある中で、家庭教師を選ばれた理由って何かあったりするんですか？

森田：時給です。

伊原：いいですね。塾講師の時給。いろんな科目を教えられてるんですか？

森田：全教科です。でも(教える相手が)中学生なので、特に問題はないかな。

伊原：アルバイトとの両立方法で心がけてたことはありますか？

森田：「バイトがあるから頑張ろう！」みたいな。真央さんと被っちゃうんですけど、そういう心持ちと、「外出ついでに図書館とか行くか！」みたいな感じでやりました。

伊原：ありがとうございます。結構皆さんアルバイトやってるからこそ勉強頑張ろうって感じですね。では次、沙和代さん、お願いします。

中島：私はアルバイトをそもそも始めたのが、7月入ってからで、月末4週目からテストだったんです。最初の3週間は週3日でシフト入ってて。お店のレジ打ちなんですけど、周囲の方がちゃんとテストのことを考えてくれて、自分がシフト表を希望として出して、その通りにちゃんと組んでくれるんです。

おかげでテストの時は完全に休みで、でもそれだとお店に申し訳ないからと思って、テストの最終日は、終わり次第、夜に入るようにして、テストが終わったらすぐバイトみたいな感じでした。

伊原：ありがとうございます。レジ打ちだけを担当しているんですか？飽きたりしませんか？

中島：飽きることはないんですけど、4時間通しで入ってるんで、ずっと立ちっぱなしだから本当に足が辛くて、お客さんいない時にストレッチしたり、足を伸ばしたりしてます。

伊原：私はずっと同じ作業ばかりの仕事は苦手で、病院のルーチンワークって向いてないんじゃないかと思い始めてるんですけど、沙和代さん、ずっ

とレジ打ってて飽きないかなって思って、訊いちゃいました。皆さん、アルバイトと勉強をメリハリつけてやられてるんですね。ちなみに私は1年生の時はアルバイトやってなかったんで、皆さんすごいなと思います。私がアルバイトを始めたのは、1年生の授業が終わった春休みからで、百貨店だったんですけど、いろんな売場に回されて、いろんな仕事をやりました。2年の前期はどれくらい入ってたかな？結構土日もしフトが入っていたのですが、百貨店だから、開店から閉店までいないとちょっと、お店側からして都合が悪いていうのがあって。土日に入るときは、開店の10時から閉店まで入って、平日は3時間くらい、夏はお中元のギフトの受けたまわりのお仕事をしてました。お中元、7月、8月だったんですけど、時節柄人手が足りなかったんで、土日プラス平日も行っていましたね。アルバイトとの両立方法は、アルバイトの休憩時間を利用して勉強の時間に充てていました。やっぱり皆さんと同じで、メリハリをつけてやるのが大事なのかなと思います。宇宙堂八木書店の皆さんからは質問ありますか？

八木：アルバイトの最中に、試験用に暗記していた単語とかが、不意に頭によぎるとかって、あったりしますか？

伊原：真央さん、どうですか？

山口：ガストのキッチン昼はもう本当に大変で、別のことを考えてたら、絶対目玉焼きとかオープンに流し忘れちゃうので、ないです。でも、確かにちょっと暇な時間に、(ランチタイムが終わって)2時とか3時とかに、(あー、勉強しなきゃな)とか思ったことがあって、前期、必須アミノ酸覚えなきゃいけないかったんで、思い出したりしてました。

八木：なるほど。作るお料理の中に、この中に必須アミノ酸が～！とか、そういうのを想像したりもするんですか？

山口：そこまでは頭が回らなかったですね。

伊原：ありがとうございます。菜生さんどうですか？

森田：家庭教師のお仕事は、1回が90分だし、1

対1なんで、あんまり考えてなかったんですけど、暗記しなきゃいけないものが、骨格とか筋肉とかが多かったんで、自分で、自分の足を見ながら、ここ何々筋だ、みたいに、ちょっとやったりしてました。

八木：家庭教師で教えている子を見ていて、この子のこういう覚え方とか、私に似てる、なんていう子がいたりもするんですか？

森田：いやー、担当しているのは一人だけですが、私とは全然違うタイプっていうか、あんまり勉強しないタイプの子なんで、そんな共感はしないですね。

伊原：ありがとうございます。沙和代さん、どうですか？

中島：私も頭によぎることはないですね。でも、なんか、スマホにOneDrive入れてるから、それで休み時間に見るとかはあるんですけど、アルバイトをしてる時にはあんまりないです。

伊原：ありがとうございます。私はいつもアルバイト中、作業しながら全然別なこと考えてるんで、品出しの仕事してる時とかはお客さんと喋ったりしないこともあって、そういう時は余裕で勉強のことも考えたり。最近はずっとお店の奥で品出ししながらSOLSのことばかり考えてましたね、運営どうしようかなとか。今、SOLSで、メンバー一人一人とズームで私と面談をするっていうのをやってるんですけど、それを思い出しながら、この面談内容、あとでどうやってまとめよう、みんな言ってること違うんだけどどうしよう、みたいなことをいろいろ考えたりしてます。

八木：中山先生も学生時代、アルバイトはされてましたか？

中山：やりましたね。今から何年前ですか。40年ほど前になるのであれですけど。私たちの頃は下宿してましたので、もともと三重県、今もそこから通ってるんですけど。とにかく賄いが出るところ、つまり喫茶店がすごく人気だったんです。だから学校終わって、まずアルバイトに行って、そこで晩飯を食べて、あの頃は懐かしいインベーダーゲームの頃ですの、それがタダでできるという。晩飯が食べられてゲームがタダでできると



いう。しかもお金がもらえるという。なかなか順番待ちするぐらい、喫茶店のアルバイトって人気でしたね、私たちの頃は。

## テーマ⑥ 一人暮らしについて

伊原：この中で一人暮らしされてる方ってどれくらいなんですかね。ちょっと手を挙げていただけますか。あ、沙和代さん・・・と、私も一人暮らしなんですけど。沙和代さんどうですか、一人暮らし大変ですか。

中島：そんなに大変だとは思わないんですけど、確かにご飯作るのはめんどくさいですね。

伊原：なんか一人暮らししていると怒ってくれる人もいないから、サボるのはもうサボり放題って感じですよ。お掃除とか料理とか、私はもうサボりまくってるんですけど。

中島：そんなに物もないし、そんなに汚くなることもないじゃないですか。

伊原：そうですね。

中島：気が楽ですね。

## テーマ⑦ 試験に向けて日々の勉強はどうしているか

伊原：次は、事前にアンケートしておいた質問で、最後の質問なんですけど、試験に向けて日々の勉強はどういう風にしていきますか？真央さん、どうでしょうか？

山口：はい。日々の勉強は、前期はあんまりできなかったなって思ってた、平日はアルバイトとか同好会、サークルがあったりで、土日もなんだかんだで、すごいダラダラとした生活になってました。でも解剖学は小テストがあった時期があったので、前日に頑張ってた覚えました。

伊原：サークル何やられてるんですか？

山口：サークルは、茶道と解剖学同好会と、なんかいっぱいあって、病理学同好会と、あと、ハートセバーっていう、1次救命、ファーストエイドとかの、練習というか、勉強しましょう、みた

いなサークルに入ってます。

伊原：すごい。医療系のサークルにたくさん入られてるんですね。

山口：そうですね。でも全部週1とか、月1とかなので、とりあえずどうにかなってます。

伊原：解剖学とか病理の同好会って、どういう活動をされてるんですか？

山口：うーん。解剖は、先生とおしゃべりしながらみたいな感じなんですけど、例えば、ラットの臓器が、人間とどう違うのか、とか、病理は、牛の臓器の細胞を見て、モザイクアートを作ろう、みたいな感じの。

伊原：すごいですね。私の大学は動物実験とかができない大学なので、その環境が羨ましいなと思っていました。じゃあ次、菜生さんいかがですか？

森田：私も前期の勉強はちょっとあんまり良くなって、だから後期は毎授業終わったらレジュメも印刷して、復習を毎日したいなっていうのが、今回の課題というか、次は活かそうっていう感じですよ。

伊原：ありがとうございます。それが理想ですね。私もすごい溜めちゃう癖があって、気づいたら復習もしてないし、どんどん溜まっていつかやって、わーって感じなんですけど、一緒に後期頑張りましょう。沙和代さんはどうですか？

中島：私はいつも全部を頭に入れているというわけではないんですけど、前日に次の日の授業のレジュメをバツと見ておくのと、暇な時に解剖とか(資料)を見たりする感じでした。

## テーマ⑧ 試験に向けて日々の勉強はどうしているか

伊原：ありがとうございます。ここで、私ちょっと皆さんに聞きたいことがあるんですけど。私、耳で聞いて暗記するタイプの人なんですけど、目で見て暗記したりとか、書いて暗記する人とか、いろいろいるじゃないですか。真央さんどうやって覚えてますか？

山口：私は目で見て、それを書いてっていうのが多いです。

伊原：ありがとうございます。菜生さんどうですか？

森田：私も目で見るタイプで、あと殴り書きするとか。

伊原：ありがとうございます。沙和代さんどうですか？

中島：私は、全部です。目で見て、紙に覚えた内容をバーって殴り書きしながら、それを音読しつつ・・・みたいな感じです。全てを使って暗記してます。

伊原：ありがとうございます。私の大学は、研究室によって、みんな覚え方が違うみたいで、血液の先生は、血液の研究室の子はイラストと関連させて覚えるのが得意な子が多いと仰っていて、国試の過去問とか解いてるときに、壁一面にいろんな関連する絵とかが描いてあるらしくて、すごくなって思っただけ。私はまだ研究室始まってないんですけど。私の日々の勉強法は、やっぱり一番は授業をしっかり聞くこと。やっぱり耳で覚えるタイプなので、先生のお話を聞いて、言っていた用語とかを耳で覚えて、頭の中に残しておいて、テスト前にバーって頑張っただけ覚えてって感じでした。だから、試験勉強の時、あんまり紙に書いて勉強するっていうのはやらなかったかなって思います。皆さん、ありがとうございます。ちょっとネタが切れてしまったんですけど、皆さんから聞いてみたいこととか、なんかあったりしますかね。

## テーマ⑨ 暗記方法について

中山：ちょっといいですか。暗記のことについてなんですけど、中島さんがパソコンより紙のほうが覚えやすいっておっしゃってましたが、まさにそれ、根本なんです。うちの学生も必要とする資料が多いので、コロナの後からは特にポータルを使ってPDFで配信したりするっていうことが多くて、スマホなりタブレットなりで資料を見るっていう形で進めていくことが多いんですけど、僕はできるだけ全部印刷して学生に配布する方法を取っています。皆さんはどんな感じですかね。

中島さんのように、僕もそうで、タブレットで文献見ても何か頭に入ってこないんですよね。なのでいつもプリントアウトしてしまうんですけど、皆さんはどうなのかなと思って、もしよかったら聞かせてください。

伊原：菜生さんどうですか。

森田：私も紙のほうが覚えやすいなって思っただけ。どの授業もレジュメは全部アプリで配信されるので、覚えなきゃいけないっていう授業のレジュメは印刷してテスト対策をしてました。

伊原：なおさんどうですか。

山口：私も紙のほうが覚えやすいので、重要な部分は紙で覚えます。全部印刷するのももったいないので、それほど重要じゃない部分は、印刷しないで頑張りました。

伊原：私も紙派ですね。私の大学も全部PDFで配信されるんですけど、私自身iPadも持ってるんですけど、やっぱりiPadに書いてると勉強した感じがなくて、タッチペンで一応書いてはいるんですけど、なんか勉強した気にならないので、私も最終的には印刷して紙で見てることのほうが多いですね。

中山：そうすると結構印刷するのにお金がかかったりしますよね。なので、まとめてくださいと学生から言われるんですけど。例えば皆さんは、よく講義で先生方、パワポを使われると思うんですね。パワポに映し出される資料すべてをレジュメとしてもらったほうがいいのか、それとも、先生のほうからここは大事だよというところだけを抜き出した形のレジュメをもらったほうがいいのか、皆さんどちらですか。

伊原：沙和代さんどうですか。

中島：私は自分で印刷する時も全部印刷しちゃうタイプで、重要だよっていうところだけでもらっても、結局心配になっちゃうんですよね。そこしか勉強しなくなるっていうのもよくないと思って、結局全部見るっていう風にしちゃうタイプなので、全部配布してもらったほうが嬉しいですね、私的には。

伊原：なおさんはどうですか？

山口：生理学で、復習という重要なレッターポイ

ントだけのファイルと、講義内容(何十枚)というのと分けられて、「復習の部分を勉強したらいいよ」みたいな感じで聞いてたんですけど、結局講義内容のところからもテストが出て、「こっちも重要だったんだ！」みたいなことが起きたので、私も全部もらった方が嬉しいなって感じです。

中山：ありがとうございます。

伊原：菜生さんにも聞いてみようかな。どうですか？

森田：私も全部配布していただきたいなって。大事なところのパートだけだと情報が頭の中に入っていくけど、中で結びつかないというか、先生が話していたなかで、雑談ばかりなぜか思い出しているみたいな話もあるんですけど、それのおかげで、これはこうだったみたいなことを思い出すことがあるので、そういう周辺の知識みたいなのも一緒に併せて、全部の履歴が欲しいなって思います。

中山：ありがとうございます。まさに作るのはそういうことなんですよ。大事なところがあって、それを覚える、または関連づけさせるために周辺のこととか、例えば症例の写真とかをつけたりするんですね。そういうふうに捉えていただいているっていうのは非常に嬉しいなと思います。

伊原：ありがとうございます。他に質問等ある方いらっしゃいますか

八木：伊原さんはどうですか？

伊原：私は基本的にパワポがレジュメに印刷されている授業というのがあまりないんですけど、パワポが配布される授業であれば、全部いただけるのならばいただきたいですね。授業中の90分の中で、授業を受けながら、ここは大事だ、ここは大事じゃないやっというのを、瞬時に先生からいろんな話を聞きながら考えていくのが大変で、私はその作業は講義が終わった後にすることが多いので。一旦全部いただけるというかなというふうに思います。

## テーマ⑩ 後期のテストは

八木：みなさんの次のテストっていうのは、いつなのでしょう？

伊原：みなさん、次は、後期の期末テストですか？何月頃ですかね？

中島：藤田は、1月24日から2週間くらい。

伊原：結構、藤田の方はテスト期間が長いですね。

中島：1日2科目だから、選択してない科目だったらそこ行かないから、1科目の日もある感じですよ。

伊原：長い期間テストが続くと、心、しんどくないですか？そんなことない？

中島：私は少ない方が好きです。前日に詰め込めるから。気が楽にテストを受けられる気がする。

伊原：真央さんとか、うなづいていらっしゃるんですけど、どうですかね？

山口：私も1日にやる教科が少ない方が嬉しいなって思う方なので、長いのも大変だけど、でも長いことよりも1日にやる教科が少ない方が嬉しいなって思っています。

伊原：菜生さんはどっち派ですかね？

森田：私も少ない教科の方が嬉しいんですけど、でもちょっと今回受けてみて、最終日とか本当にだるくてだるくて嫌だったので、程よい感じがいいかなって思いました。

伊原：すごいですね、みなさん。私の大学はテスト期間が5日間で、藤田に比べると詰め込み方式かなって思うんですけど、私はもう長いテスト期間に耐えられないので、一気にパーってやった方が良いです。皆さんそれぞれのやり方に合ってるって感じですかね。

## テーマ⑪ 好きなテスト科目あるの

八木：みなさん、好きなテストとかありますか？分野的に。このテストはもう受けるのがすごい好

きっていう。

伊原：真央さん、どうですか？

山口：テストを受けた中で、楽っていうか、対策が楽だったのはダントツで中国語なんですけど。でも、どうなんだろう。物理とかは自分が好きで取ってたので、結構楽しかったなっていう感じです。

伊原：ありがとうございます。菜生さん、どうですか？

森田：私も楽さだと中国語なんですけど。生化学の勉強は、一問一答の小テストを勉強してたんで、それが一番楽しかったかもしれないです。

伊原：ありがとうございます。沙和代さん、お願いします。

中島：楽な科目は、医療以外の科目かなって思いました。でも、自分がそんなに苦手だと思うものがなくて、医療の分野が好きで進んだんで、特に苦に感じることはあんまりなくて。ちょっと思ったのは、小テストが日頃ある科目は勉強しやすくなっているふうに思いました。

伊原：定期的に行う小テストと類似した問題が出るんですか？

中島：そうですね。そのまま出た科目も結構あると思います。

伊原：なるほど。ありがとうございます。個人的に1年生の教養科目は、結構成績取りどころだなと思うんですけど、今は専門科目始まってからGPA (Grade Point Average) ダダ下がり、もうやばいって感じなんですけど。私は「この科目は得意！」みたいなのは特になんですけど、頭が文系寄りなところがあるので、試験とは関係ないけど、レポート書くとかの、文章を書いたりすることが多い科目は、取り組みやすかったりはしました。

八木：中山先生いかがでしょう。中山先生が一番学生時代に熱中した科目とかはありますか。

中山：熱中した科目ですか。ほとんど熱中しなかったんで、低学年の初めの頃は、見回すと、前にいっぱい人がある成績でしたので。病院に実習に行ってからですね、面白いなと思い出したのは。面白いと思うきっかけになったのは、微生物と免疫

なんですね。生化学なんかは生物とかで習いますが、「化学反応が体の中で起こってる」までは理解できるんですけど、免疫って、またちょっと違いますよね。そんな反応が体の中にあるんだって、しかも特異性あって、相手を認識して特異的な抗体ができたり。

細菌やウイルスなどを攻撃対象と認識するシステムがあるっていうのに、ちょっとびっくりしたんです、実は。いったん興味が沸いてくると、頭に入るんですよね。なのでそのおかげで、ちょっと自慢すると、今度は「回れ、右！」することなく、前の方に居ました。そういう思い出があります。あと、今日は1年生の方が多いということ、みなさんはもう全然再試もないので大丈夫だと思いますが、今、私は大学で1年生の担当をしているんですけども、1年生だった時はあまり成績が振るわず、なんとか上に上がりましたって子たちでも、2年に入って一気に専門科目が増えて、みんなでもう一度スタートラインに立つので、チャンスだと思うんですよね。私のように、何かのポイントで「面白い！」って思ったら、そのときにスタートダッシュで走り出せるので頑張りましたよっていうふうには言ってます。以上です。

八木：すみません、知識のない立場での質問なのですが、1年生のときに基礎的なことをやって、2年生になると一気にプロの領域というか、例えば、モノクローナル抗体を大学の実験で使ったりとか、そういうメリハリがある感じなんですか？

中山：そうですね。科目分けとしては、いわゆる基礎科目ですね。化学とか数学とか、語学ですとか、倫理とかあるんですけども、基礎科目と専門科目との間に専門基礎という風な分野、化学から生化学になって、今度は人の化学の臨床化学になっていくという形の科目付けになっているんですね。でもやはり、国家試験が最終的に4年目にあるということで、多くの学校ではだいたい1年生の前期を中心に基礎科目が終わって、1年生の後期あたりから専門基礎が入ってきて、2年生になると一気に実習と専門科目が入ってくるというカリキュラムが一般的なんです。そこが、逆に



基礎から専門科目へ進んだ時に、何か違和感があるっていう人は、高学年になってからの方が、だんだん辛くなってくるかもしれません。1年生だった前期、全然成績が振るわなかったけれど、僕みたいに「あれ？免疫って、何かむちゃ面白いやん！」って思い始めるタイプの方が、ちょっといいかもしれませんね。どうしても専門分野に特化した学部ですので、「興味を持つ、持たない」というのが大きなポイントだと思います。

## テーマ⑫

### 2年生からの科目－選択科目について

八木：伊原さんは、2年生になって、「この科目を選択してよかった！」っていうのと、1年生のみなさんは、「これから絶対あの科目だけは取る！」っていうものはもう、決めてらっしゃるものなんでしょうか。

伊原：訊いて行きましようかね。真央さん、どうですか。

山口：はい。2年生で始まる内容については、まだちょっとよくわかっていないんですけど、講義してくださった先生とかが、「2年生になったらこういうのあるよ」と教えてくれる、みたいな。公衆衛生学実習とか、食品衛生系とかがあるんですけど、私は食品衛生系の資格が大学で取れるので、取ろうかなって思っています。

伊原：ありがとうございます。藤田って何個か取れましたよね、食品衛生関係の。何でしたっけ？

山口：食品衛生監視員とか、あとは…。

中山：食生活アドバイザーとかありますか？

山口：食品衛生管理者、食品衛生監視員とか、第一種衛生管理者とか、食品衛生系の資格が取れるみたいです。

伊原：ありがとうございます。菜生さんどうですか？

森田：私も、2年生でやりたいことは全然決まなくて、何に興味があるかもそんなにはっきりしてなくて、もともと好き嫌いを決めるのが苦手ですが、生体内系を勉強したいなってざっくり思います。

伊原：ありがとうございます。沙和代さんどうですか？

中島：私も科目については全然把握してないんですけど、自分は、大学院へ進んで、がんの研究したいって考えてるんで、それに関連した科目が選択の中にあれば取るのと、あと3年だったか4年だったか忘れたんですけど、数理AIサイエンスっていう科目があるんですね。それ、すごい面白そうだなって思って。1年生では数学を取っているんですが、もし3年、4年になってからその分野もあれば、取っていききたいなっていうのは考えてます。

伊原：なるほど。ありがとうございます。私は、高校生の時は細胞検査士を目指していたっていうこともあり、ずっと1年生の頃から病理が好きなんですけど、別に得意なわけじゃなくて、あくまでも好きなだけなんですけど、病理のゼミに入れたらいいなって思ったり。あと2年の後期から遺伝子分析科学認定士の試験に向けて、必修ではないんですけど、その試験を受けたい人は受けなくちゃいけない科目が選択科目にあるので、それを取ります。遺伝子に特別興味があるというわけでもないんですが、この学部の4年間のうちに、いろんな分野に触れられたらいいなと思って。遺伝子分析科学認定士の試験も受けようと思っていることもあって、関連する科目をちょっと頑張りたいなと思っております。

八木：中山先生は、将来の進路を何年生ぐらいで決定したのでしょうか？

中山：そうですね。私たちの頃は大学院進学というシステムがあまりなくて、(卒業したら)病院に勤めるものだと思ってました。だけど、ふわふわとですが、「研究はやりたいな」と思ったので。仕事終わってから、アフター5にずっと奈良医大のほうに通ってました。それが講じて、博士号をもらって教員になってるんですけども。皆さんのように、はっきりとした意思のもとで人生を歩んできたというよりは、流れ着いたらここにおったっていう感じです。臨床検査学の一番いいところは、例えば化学の、本当にケミストリーのような分野から、生理学や医用電子工学は物理で

すし、あと病理とか細菌のような形態学ですとか、本当に様々な分野に広がっていますので、逆に言うと、これだけいろいろあるんだから、例えば学生の時から何かひとつを決めなくても、職についてから、自分に合うものを見つけられるんじゃないかなって思います。他の医療系だと、結構方向が決まっていますよね。臨床検査学っていろいろある分、やりたいことが見つかる可能性が大きいんじゃないかなと。

## テーマ⑬ フリートーク

八木：学生の皆さんから、中山先生に訊いてみたいこととかありますか。

中山：大丈夫ですよ。後で編集してくれるらしいですから。

中島：さっきのお話なんですけど、就職して働きながら大学院にも行ってたってことですか？

中山：これが面白くて、今は社会人枠の大学院ってありますよね。本学もそうなんですけど、当時は「働きながら修士課程に行って学位を取る」という概念はほとんどなかった。なので、仕事が終わってから、自分で研究室に通って実験をしてました。それが例えば臨床科の小児科である人もいましたし、私の場合は本当に基礎のケミストリーの部屋だったんです。化学教室に縁があって、「じゃあ仕事終わったら遊びにおいで」って言うてくれて、20年ずっと通ってたっていうか。それがライフスタイルだったんです。仕事終わってから大学の研究室に7時ぐらいに着いて、そこから10時ぐらいまで実験して家に帰る。帰らない日も結構ありましたけどね。寝袋で(研究室に)泊まったり。そんなことをやってて、特段、博士号を取れるとか取りたいとかそういう気持ちは全然なくて、取れるとも思ってなかったんです。ただ実験がしたかったんです。研究がしたかったっていうか。で、ずっとやってた教授から、「お前に学位取らせるから」って言われてびっくりしたっていう感じですね。なので僕の場合は、今はもうあんまりないですけど、論文博士なんです。研究成果を、他

の大学に学位審査を依頼して、そこで審査してもらってという形なので、僕は奈良医大で実験をしてたんですけど、学位自体は大阪府立大学の農学部で取ってるので、だから僕、農学博士なんです、実は。名刺見ると、岐阜医療科学大学で、僕は微生物の認定も持っているんで、認定臨床で微生物臨床検査技師なんですね。そこに博士(農学)って書いてあるから、どういうことじゃ？って表情でみなさん名刺を見てる人が多いんですけど。100人会議の第1回に登壇させていただいた時もその話をしましたが、皆さんこれからいろんな方と出会いがあっても、損になる出会いはひとつありません。出会いを素晴らしいものにするかどうかは自分次第です。今の出会いを大切に、それぞれの出会いで道がある、ターニングポイントがある。その場所は用意されているんじゃないくて、自分がそこをターニングポイントにして進んでいくんですよ。出会いを重ねることによって、いろんな方向性を探りながら楽しい人生を送っていただきたいと思います。

中島：もうひとつ、いいですか。「臨床検査技師」って、その資格を取ってから、何年か働いた後に取れる資格とかあるじゃないですか。そういうのとかは取得されましたか。

中山：そうですね。実はこれも40年前の話になっちゃいますが、二級臨床検査士とか一級臨床検査士とかありますが、あまりブームじゃなかったんです、実は。取りに行く人が稀なくらい。今でこそ二級臨床検査士なんかは、大体臨床検査技師1年目、2年目の人がほとんど取りに行きますが、私の頃はそれ全然取りに行っていなかったです。認定資格もなかった。私が30代ぐらいの頃に認定資格が出てきたので、同僚も30代が多いですから、認定資格をみんな取りに行くわけなんですね。本当にすごいところに目をつけてくれたなと思ったんですけど、僕は実験しに行ってたから、認定資格は全然取ってなかったです。なので、認定資格を取ったのは50前ですね。認定資格の試験場に行くと、だいたい午前中が筆記試験で午後が実験、実技試験なんですけど、実技試験に付く試験監督ってグループ4人一組にだいたい1人ぐら

いですけど、試験監督の顔見ると、かつての同僚が多かったりして、顔見知りだったりするんですよ。「中山さんそっち（受験側）と違うやろ、こっち（試験監督側）やろって言われて、「いやいや僕今日はこっち（受験側）やねん！」とか言いながらね。だから、認定資格が取れた時は、嬉しいというより、ホッとしましたね。内心（ああよかった、一回で取れて）と。すごいプレッシャーでした、ある意味。でもやっぱり、どっかで取らないとダメだなんて思っていたので、一念発起して。実は、県立病院から奈良医大に変わったときに、誰かから名言を教えて貰ったんですが、人事（ジンジ）と書いて人事（ヒトゴト）と読むっていうね。ずっと微生物をやってましたが、奈良医大に交換トレードで変わったときには、病理検査になったんです。病理のそのスタッフって、私を含めて9人いたんですけれど、私以外全員スクリーナー持ってるんですよ。年齢こそ（上から）2番目でしたが、この1年間を無駄にははいかんと思ったので、そのときに微生物の認定資格を取りました。

中島：ありがとうございます。

森田：認定資格っていうのはたくさん取るべきなんでしょうか？

中山：数を取れば良いというものでもないんです。二級試験は特別ですけど。認定資格の場合は、受験資格がだいたい全部にあります。微生物だと、「筆頭者としての論文発表が1編以上、臨床微生物学または感染制御に関する筆頭者としての学会発表が3回以上あること」と認定研修施設において5年以上の実務経験などが受験資格になるんですね。それだけクオリティの高いものになっています。例えば職位を上げていきたいとか、専門の分野に配属されたいとか希望があった場合、病理がやりたくて就職したんだけど、必ずしも病理の検査をする部署に配属されるとは限らない。私、一番苦手なのは生理検査なんで、生理検査に回されたらどうしようってずっと思っていました。そのときに自分のやりたい分野に就くには、その分野の認定資格を持っているっていうのが一番有利だなと思います。自分のやりたいことを成し遂

げていくための手段として、認定資格を取っていくっていうのはいいと思います。それと、特に大学病院クラスになってくると、僕の場合もそうでしたが、大学病院の技師長になるには、認定資格と博士号を持っていることっていう条件がつけられているところがかかなり増えてきています。ですからやはり将来職位を上げていく、キャリアを積み上げて行く上で、専門領域の認定資格っていうのは非常に有用だと思います。認定資格をいっぱい持っているっていうよりも、自分の役に立つであろう資格を着実に取っておくっていうのが、将来のキャリア形成にすごくいいと思います。

森田：ありがとうございます。

伊原：大学院を修了された後での研究生活で、通常の学部での4年間の勉強とはまた違う、なにか、得たものがあったら教えていただきたいです。

中山：学問的なところでは、私の場合は、タンパク質の精製とか性質を調べたりとか、近いうち習うと思うんですけど、酵素反応の実験とか、そういったものを実際やってみたっていうのがあります。例えば遺伝子組み換えですね。遺伝子に変異を導入して発現したタンパク質を調べてみたりとか。そういった、臨床検査ではやらない技術を学ぶこともできました。研究手法として通常では経験できない手法を身につけるっていうのも大きいんですけど、大切なのは考え方だと思います。「ものの見方を学ぶ」というのが大学院で得られる大きなメリットだと思います。加えて、博士号を取るとか研究をするっていうのは、卒業研究もありますけれども、研究を学ぶほかにもう一つ、「現場に出たときの危機管理」なんですね。学んだことを応用して、危機管理の考え方に繋げて判断できる。つまり、何か起こったときに、その事態をどう分析して、必要な知識をどこから持ってきて、それを整理して、どういうふうに使うかっていうのは、研究と一緒になんです。そういったものの見方と考え方っていうのを、研究を通して学んで、実際に活かせるようになったら、素晴らしいと思います。大学を出た全員が研究だけをしているわけではなくて、現場で働きながらの人が圧倒的に多いので、卒業研究っていうのはそういう位置づ

けでもいいのかなと思ってます。大学院での研究は、大学で学んだことを基礎として、「ものの見方と考え方」を学ぶことかなって思います。だからフィロソフィーなんですよ、Ph.Dは。っていうふうに私は教わりました。

伊原：ありがとうございます。院進(大学院進学)するかどうかで、院進しようかな、やっぱ就職しようかなって、ずっと行ったり来たり迷っているんですけど、こうやって大学の先生方と話すたびに、やっぱり院進しようってすごい引き戻されますね。ありがとうございます。

中山：臨床の現場はいつでも行けます。なので、できるだけ自分に時間的な余裕があって、まだ頭も柔らかく、社会的なしごらみも無いうちに、「研究の場に身を置く」経験を積むのも、僕はすごいことだと思います。

伊原：ありがとうございます。

山口：私は今は生殖医療の方に興味があって、それも今後、変わってくるかもしれないんですけど、もしこのまま生殖医療に進んで行こうとなった場合、さきほどのお話に出てきた、認定資格とか胚培養士を取る必要があるかなと思っているんですが、自分が行きたい職場、なりたいものに近づくためのコツはありますか？

中山：答えになるかわかりませんが、自分の考え方をどうするかです。就職した先でどんな仕事に就くかっていうのは自分では決められないところですよ。学校で学ぶことだけでは想像つかない側面が、実際の臨床の現場にはいっぱいあります。実際の現場に出てみて、そこから自分がやりたいことを模索していくのも良いのではないのでしょうか。それまで想像していたものが、実際とは違うかもしれないということに気づくことがあるかもしれません。いろいろなことを経験してください。微生物がやりたいとだけ思って就職したのに、全然違う部署に配属になったら、がっかりするし、モチベーションも落ちるじゃないですか。だけど、どんな部署に配属されようと、とにかく、興味を持って、どんなことがあるんだろうって、体当たりで頑張ってみたら、思いがけない人との縁がつながる、とかね。僕はそれでも、内心(生

理やっぱり苦手かな)と思いながら現場に出たんですけど。実際やってみて、(意外にこれ、私に向いてそう)っていうところを見つけに行くんだっていうつもりで就職してもいいのかなって思います。

山口：ありがとうございます。

伊原：では他に・・・なければ、そろそろ時間も来ましたので、最後にみなさんに、今回の座談会における感想をいただいて、めようかなと思います。真央さん、お願いします。

山口：はじめての座談会で、やる前はちょっと緊張してんですけど、和やかな感じですごく楽しかったです。ありがとうございました。

伊原：菜生さん、お願いします。

森田：今回のテストっていう内容のあたりも、すごい話しやすく、参加して楽しかったです。先生のお話もたくさん聞けて、参考になりました。ありがとうございました。

伊原：では、沙和代さん、お願いします。

中島：今回参加してみて、初めてだったんですけど、お題とか質問とかも答えやすかったし、先生にもいろんなことを訊けて、今回参加してよかったなって思いました。機会があればまた参加したいなと思っています。ありがとうございました。

伊原：私も一言。本日は2回目の座談会の参加ということで、ちょっと拙い司会になってしまいましたが、皆さんお答えいただきありがとうございました。やっぱり学校が違うので、それぞれテストの日程だったり、テストの出題のされ方だったり、授業の雰囲気だったり、違う部分などを知ることが出来て、楽しかったなというのと、やはり後半の進路関係の話は、どこでしてもすごく盛り上がるし、話が深くなるなという印象を受けました。今日はありがとうございました。

八木：中山先生、最後に感想をお願いします。

中山：初対面の方ばかりで、しかも自己紹介で教員ですって言ったら、え、教員がおるんかよ、みたいな風に感じられてしまうのかな、なんて実は思ってたけど、座談会が進むにつれて、皆さんのいろんな話を聞かせていただいて、また意見を言わせていただいて、楽しい会議をしていた



だきました。本当にありがとうございます。この座談会が始まったっていうのは、教育協議会の会長の坂本先生に学会でSOLSの話をしまして、それから一週間後ぐらいだったですかね、八木書店さんを紹介していただいて、ちょっと打ち合わせをさせていただく中で、学生さんが主体となって何かやっていくっていう記事を季刊号みたいな形で年4回掲載していただくっていう話が進んで、無事1回目がリリースされて、本当によかったっていうか、すごいしっかりしてるじゃんって。も

う私はいなくても、これで役目終わったなって思ってたんですけども。でもこうやって参加させてもらえるとすごく楽しいので。必要な時にちょこっと口を出すというふうな立場で、参加させてもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

伊原：では、以上で2回目の座談会を終わりにしようと思います。皆さん、本日はありがとうございました。